

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991100015		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ都留中津森グループホーム		
所在地	都留市中津森1033-1		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々の健康状態を考慮しながら、その時の季節を感じられるような場所への外出や、外食を月に1度行う様に計画し実行するようにしている。また、入居者の方の残存機能を落とさないように出来るだけ自分で行なっていただけるように声掛けに工夫しながら支援をするようにしています。職員も含め入居者と共に和気あいあいと過ごせるような雰囲気作り力を入れています。入居者の生活状況を家族来所時には管理者・計画作成担当より、出来るだけ詳細に報告をし入居者1人ひとり個別のアルバムを作り、退去時に家族に渡している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の居室から桂川のせせらぎの音が聞こえ、バイパス道路の向こうの色づいた山々の紅葉が心落ち着かせる。地区のガソリンスタンドが事業所の入口にあり出掛けの際に声を掛け合う事も多い。地域の夏祭りや記念イベントを通じ地域住民の大勢の参加を得て交流を図っている。消防署の立会いのもと、2階の車椅子の利用者の避難方法や煙を吸わないで避難する方法の指導を受け、災害時の対応について積極的に取り組んでいる。居室のベッドは同一ではなく、その人らしく畳に布団を敷いたり、ホットカーペットを敷いて自分で布団を使ったり、衣類を籠で整理して手元に置いていつも気にかけている利用者など、居心地のよい居室づくりで温かい雰囲気が醸し出されている。かかりつけ医、協力医往診の他看護師が週2回来所して健康状態を把握している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 ツクイ都留中津森グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(紙ふうせん)	ユニット名(竹とんぼ)	実践状況a	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた町で、幸せと感じる時を大切にします。1人1人の気持ちに寄り添い、ゆとりある時間を大切に生活を支援します。と云う理念と旧理念も取り入れながら実践できるようにしている。	「住み慣れた町で、幸せと感じる時を大切にします。1人1人の気持ちに寄り添い、ゆとりある時間を大切に生活を支援します。と云う理念と旧理念も取り入れながら実践できるようにしている。	以前の理念を検討し今回新しく利用者一人ひとりの個性を尊重出来る理念を作成した。職員の見やすい所に掲示し、また月1度のミーティングで理念を掘り下げ検討し、管理者と職員で共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域開放イベントなどを通して、地域の方達との交流を行ったり、ボランティアの方達が来所して、交流している。	地域開放イベントなどを通して、地域の方達との交流を行ったり、ボランティアの方達が来所して、交流している。	地域開放イベントを通じて、地域対職員の綱引きや太鼓、踊り等、地域の人達が来所し触れ合う機会を持っている。散歩に出掛けるとガソリンスタンドの店員が何時も声をかけてくれる。月1回フラダンスや歌のボランティアが来所して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来た方や、見学に来た方には対応方法についてのアドバイスを行う事はある。	面会に来た方や、見学に来た方には対応方法についてのアドバイスを行う事はある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い市町村担当者、自治会関係者、ご家族に出席して頂き、ご意見や思いを伺い、職員への周知をすると共にグループホーム運営にも反映している。	2ヶ月に1回運営推進会議を行い市町村担当者、自治会関係者、ご家族に出席して頂き、ご意見や思いを伺い、職員への周知をすると共にグループホーム運営にも反映している。	2か月に1回平日の日中に運営推進会議を行っている。事業所からの報告や、家族からの質問(2階で生活している利用者の非常時の避難方法)や要望(ドライブに行ってほしい等)が出され検討、説明をしてサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	文書関係での報告や電話、または役所に出向き不明な点での質問やアドバイスなどを受けるようにしている。	文書関係での報告や電話、または役所に出向き不明な点での質問やアドバイスなどを受けるようにしている。	市の担当者から事業所名等の変更時の手続きの指導を受けた。事業所内での転倒や、最終時の報告など市担当者との連携を深めている。入所する際、利用者が用意する品物で判断できない時など意見を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会を毎月開き、身体拘束禁止についての理解を深め、職員間で話し合いを行い身体拘束をしないで生活をするようにしている。	身体拘束禁止委員会を毎月開き、身体拘束禁止についての理解を深め、職員間で話し合いを行い身体拘束をしないで生活をするようにしている。	身体拘束禁止委員会には夜勤明け以外の職員は参加し、参加できない職員には回覧をし身体拘束をしないケアの実践に繋げている。2階の入り口の扉は階段が近く鍵がロックしてあるが、家族と職員間で話し合いながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会開催時に虐待防止についても話し合いを行い、職員間の周知を図っている。	身体拘束委員会開催時に虐待防止についても話し合いを行い、職員間の周知を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人とのかわりには主に管理者と計画作成担当者が持っている。職員には制度の周知は行っている。	成年後見人とのかわりには主に管理者と計画作成担当者が持っている。職員には制度の周知は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・退去時に必ずご家族に分かりやすく説明を行っている。	契約時・退去時に必ずご家族に分かりやすく説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(紙ふうせん)	ユニット名(竹とんぼ)	実践状況a	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を本社と事業所に設けている。家族からの意見や要望については運営に反映させるようにしている。	苦情相談窓口を本社と事業所に設けている。家族からの意見や要望については運営に反映させるようにしている。	家族が来所の際、管理者・職員に個人的な要望等が出され対応をしている。運営推進会議に多数の家族の参加があり、面会時の駐車場が狭く停める事が困難の意見等、出された意見、要望は検討して運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティング・カンファレンスを行い、職員の意見・考えなどを積極的に出し合い、話し合いを行って反映させている。	毎月ミーティング・カンファレンスを行い、職員の意見・考えなどを積極的に出し合い、話し合いを行って反映させている。	ミーティング・カンファレンス等で職員から意見・要望を聞いている。夜間の休憩時間の要望やシフトの希望、また食材の購入方法等出された要望等は、速やかに話し合い運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・職員に関して、ここに目標を立ててもらい、フロアに掲示し活動するようにしている。必要時面談も行いやりがいをを持って働けるように配慮している。	管理者・職員に関して、ここに目標を立ててもらい、フロアに掲示し活動するようにしている。必要時面談も行いやりがいをを持って働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間社内研修計画が組まれており新人から管理者まで計画に沿って研修が行われている。また、事業所内でも年間研修計画に基づき勉強会を行っている。内容については職員に担当してもらい勉強会の進行をして貰うようにしている。	法人内で年間社内研修計画が組まれており新人から管理者まで計画に沿って研修が行われている。また、事業所内でも年間研修計画に基づき勉強会を行っている。内容については職員に担当してもらい勉強会の進行をして貰うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での別の事業所同士の交流や会議等をする機会がある。また外部の研修に関しても情報や通知を元に職員に知らせ、希望者が参加するようにシフトにも配慮している。	法人内での別の事業所同士の交流や会議等をする機会がある。また外部の研修に関しても情報や通知を元に職員に知らせ、希望者が参加するようにシフトにも配慮している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と施設内の見学や来所されたときまたは自宅を訪問した時に必ず面談をして情報を聞くようにしている。また、入居間もない方には、特にちょっとした変化も見逃さないように注意している。	ご家族と施設内の見学や来所されたときまたは自宅を訪問した時に必ず面談をして情報を聞くようにしている。また、入居間もない方には、特にちょっとした変化も見逃さないように注意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と施設内の見学や来所されたとき、または自宅を訪問した時に必ず面談をして情報を聞くようにしている。また、入居間もない方には、特にちょっとした変化も見逃さないように注意し入居翌日にはご本人の様子を伝えるようにしている。	ご家族と施設内の見学や来所されたとき、または自宅を訪問した時に必ず面談をして情報を聞くようにしている。また、入居間もない方には、特にちょっとした変化も見逃さないように注意し入居翌日にはご本人の様子を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺った中で見極めて確認し、現時点で支援を必要と思われること、自立している部分をしっかりと見極め対応をするようにしている。	お話を伺った中で見極めて確認し、現時点で支援を必要と思われること、自立している部分をしっかりと見極め対応をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切に一緒に生活する中で入居者の方々の心情の変化を読み取り、対応するようにしている。	コミュニケーションを大切に一緒に生活する中で入居者の方々の心情の変化を読み取り、対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(紙ふうせん)	ユニット名(竹とんぼ)	実践状況a	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際にご家族には日頃の様子をお話する機会を設けたり、ご本人に対するご家族の思いを伺ったりしている。また、身体状況など気づいたことがあったり、ご本人からご家族への訴えがあった場合には電話連絡を行う様になっている。	面会の際にご家族には日頃の様子をお話する機会を設けたり、ご本人に対するご家族の思いを伺ったりしている。また、身体状況など気づいたことがあったり、ご本人からご家族への訴えがあった場合には電話連絡を行う様になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会等、ご本人やご家族の意向を伺っており、制限をする事はない。	馴染みの方の面会等、ご本人やご家族の意向を伺っており、制限をする事はない。	仲人をした若い夫婦、小学校時代の友達、親戚の方等の面会がある。面会時の時間制限はなく夜間の面会もある。また家族と共にお寺への挨拶や、法事などに出掛けることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が馴染みになれるよう、自然な形でコミュニケーションが摂れるように配慮し、常に見守りながら必要時声掛けを行ったりして穏やかな関係でいられる様にしている。	入居者同士が馴染みになれるよう、自然な形でコミュニケーションが摂れるように配慮し、常に見守りながら必要時声掛けを行ったりして穏やかな関係でいられる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様の忘れていった物を届けたり、写真を退去時にお渡しできなかったりした物を届けたりしている。他施設に移った方の様子を伺ったりしている。	退去された利用者様の忘れていった物を届けたり、写真を退去時にお渡しできなかったりした物を届けたりしている。他施設に移った方の様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者がモニタリングを行い本人や職員が見たり聞いたりした様子を取り上げて職員全体で把握検討している。	計画作成担当者がモニタリングを行い本人や職員が見たり聞いたりした様子を取り上げて職員全体で把握検討している。	日々の関わりの中で利用者の表情、食事時の食べ具合などで思いを把握している。本人の嫌いな物が出て食べない時は工夫をし、表情がよければ実践に移すようしている。家族と相談して思考錯誤して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回の面接時に本人とご家族に伺ったり、前任の介護支援専門員にも情報を頂いたりしている。また、入居されてから、コミュニケーションを取りながら、聞き出ししたりして、把握するようになっている。	初回の面接時に本人とご家族に伺ったり、前任の介護支援専門員にも情報を頂いたりしている。また、入居されてから、コミュニケーションを取りながら、聞き出ししたりして、把握するようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを参考にしながら、カンファレンスで毎月職員間で意見を出し合い、把握に努めている。	モニタリングを参考にしながら、カンファレンスで毎月職員間で意見を出し合い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとの評価の際や、必要時本人やご家族の意向、職員の意見等を反映して、ケアプランを作成している	3か月ごとの評価の際や、必要時本人やご家族の意向、職員の意見等を反映して、ケアプランを作成している	日々の関わりの中で利用者の思いや家族の意見を聞き反映させている。職員全員が利用者のモニタリングを記入し職員間で検討し気づきが反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日1人ひとり入浴時の様子とか食事時の様子発した言葉等職員が気づいた事を個別の介護記録に記入し、その人らしい暮らしをする為に、反映させている。	毎日1人ひとり入浴時の様子とか食事時の様子発した言葉等職員が気づいた事を個別の介護記録に記入し、その人らしい暮らしをする為に、反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(紙ふうせん)	ユニット名(竹とんぼ)	実践状況a	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後様々なニーズに対応する事を視野に入れ、敷地内のデイサービスや自社の訪問入浴サービスとの連携を取れるようにしている。	今後様々なニーズに対応する事を視野に入れ、敷地内のデイサービスや自社の訪問入浴サービスとの連携を取れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練等で消防署の方、フラダンス・歌のボランティア等の方と交流を持ち支援している。	防災訓練等で消防署の方、フラダンス・歌のボランティア等の方と交流を持ち支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と医療機関協定を結び相互に連絡調整を行いまた必要時には受診に付き添い医師の指導を受けている。	往診医と医療機関協定を結び相互に連絡調整を行いまた必要時には受診に付き添い医師の指導を受けている。	本人や家族が希望するかかりつけ医受診としている。基本的には家族同行の受診となっているが、緊急時等職員が対応している。月2回事業所の協力医が往診している。週2回看護師が来所して健康状態を把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、看護師が定期的に健康管理にきている。バイタルチェック・内服薬に関する相談・皮膚のチェック等を行っている。また、緊急時駆けつけたり電話で指示も仰いでいる。	医療連携体制を整え、看護師が定期的に健康管理にきている。バイタルチェック・内服薬に関する相談・皮膚のチェック等を行っている。また、緊急時駆けつけたり電話で指示も仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、グループホームでの様子をサマリーで病院に渡したり、口頭でも伝えている。退院時には入院中の情報を看護サマリをもらいその後の経過観察や介護に役立てている。	入院時、グループホームでの様子をサマリーで病院に渡したり、口頭でも伝えている。退院時には入院中の情報を看護サマリをもらいその後の経過観察や介護に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応にかかる指針又看取りに関する指針は契約時にご家族に説明を行っている。現時点では終末期の状況までは至っていない。社内的にも看取りに対する取り組みをしているので、研修などで取り組みについて整備を行っていく。	重度化した場合の対応にかかる指針又看取りに関する指針は契約時にご家族に説明を行っている。現時点では終末期の状況までは至っていない。社内的にも看取りに対する取り組みをしているので、研修などで取り組みについて整備を行っていく。	入居時、家族に医療的な処置が必要になった時事業所が出来る支援方法について説明をしている。看取り状態になった時の取り組みの勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所前に職員全体でAED講習会や応急処置の訓練を行なったが定期的には行っていない。研修時に救急対応のレジュメを使用し、手順の確認は行ったが、実技研修も必要と考え広報誌等で研修があれば積極的に参加する事の促しと事業所でも行う予定。	開所前に職員全体でAED講習会や応急処置の訓練を行なったが定期的には行っていない。研修時に救急対応のレジュメを使用し、手順の確認は行ったが、実技研修も必要と考え広報誌等で研修があれば積極的に参加する事の促しと事業所でも行う予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いで防災訓練を行なった。地域の方々の協力を得た形での訓練が行えていないが、2階フロアより車椅子対応の方を避難する方法等の訓練を行なっている。	消防署員立会いで防災訓練を行なった。地域の方々の協力を得た形での訓練が行えていないが、2階フロアより車椅子対応の方を避難する方法等の訓練を行なっている。	消防署立会いのもと、車椅子利用者の2階からの避難方法や火災時に煙を吸わない方法の訓練を学んだ。次回(11月)隣接のデイサービスの協力を得ての避難方法と水消火器の対応等の訓練予定がある。また、多くの備蓄が整えてある。	災害はいつどの時間帯に起こるか分かりません。夜間の時間を想定した様々の方法で職員全員が、日中の中で具体的に体験して体で覚える事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	公的な記録書類と職員間での申し送り事項とを完全に区別しており、ご家族や公的機関には場合によっては見せる事もあるが、職員の持ち出しは厳禁としている。声掛けに関して不適切と思われる時にはその場で出来る時はその場でミーティング等で注意を行っている。	公的な記録書類と職員間での申し送り事項とを完全に区別しており、ご家族や公的機関には場合によっては見せる事もあるが、職員の持ち出しは厳禁としている。声掛けに関して不適切と思われる時にはその場で出来る時はその場でミーティング等で注意を行っている。	他の利用者の居室に入ってしまう利用者には、気分を損ねないさりげない誘導を行っている。居室から出る時、鍵をかける要望がある利用者には本人のプライバシーを守るための配慮をした対応をしている。常にその人に合った言葉かけや心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(紙ふうせん)	ユニット名(竹とんぼ)	実践状況a	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話等の中で本人の思いや希望の訴えが出来る様になっている。	日常の会話等の中で本人の思いや希望の訴えが出来る様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりが自分のペースで自分の思うように過ごせるように支援している。	入居者1人ひとりが自分のペースで自分の思うように過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師が定期的に来ており、本人の希望するスタイルに出来る様になっている。又、職員が毎日髪の毛のセットをしたりする方もいる。	日常の会話等の中で本人の思いや希望の訴えが出来る様になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理(野菜の皮むき、刻む等)座っていても出来る事は声掛けをして行っていただくようにしている。また、盛り付け等も行っていただくようにしている。	調理(野菜の皮むき、刻む等)座っていても出来る事は声掛けをして行っていただくようにしている。また、盛り付け等も行っていただくようにしている。	利用者の身体機能が落ちて食事の介助をする利用者が多くなってきている。食材は業者の配達。台所で料理する音が聞こえ出すと手伝いをしてくれる利用者が皮むき、刻む、盛り付け、下膳等、職員と一緒にいる。車椅子の利用者も音や匂いを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の介護記録に常に食事の摂取量や水分摂取量を記録して1日を通しての食事摂取量や水分摂取量の把握を行っている。水分摂取が咽などで思うように出来ない方にはスポーツ飲料水等をゼリーなどで摂りやすくして提供している。	個別の介護記録に常に食事の摂取量や水分摂取量を記録して1日を通しての食事摂取量や水分摂取量の把握を行っている。水分摂取が咽などで思うように出来ない方にはスポーツ飲料水等をゼリーなどで摂りやすくして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯磨きの声掛け・誘導・確認を行い、義歯洗浄も行っている。歯のない方も嗽を行っていただいて、口腔内の清潔保持に努めている。	毎食後に、歯磨きの声掛け・誘導・確認を行い、義歯洗浄も行っている。歯のない方も嗽を行っていただいて、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	15分単位で排尿排便のチェックを出来るシートを使用して一人ひとりの排泄リズムを把握して誘導するようにしている。	15分単位で排尿排便のチェックを出来るシートを使用して一人ひとりの排泄リズムを把握して誘導するようにしている。	15分単位の排泄チェック表で排泄リズムを把握し、車椅子の利用者にも時間を見計らって誘導する事により、トイレで排泄ができるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意して、便秘予防になる食材を食事やおやつに使用して調理を行っている。又、身体を動かしたりする事も大切なので、歩行可能な方にはフロアと廊下を歩いたり、食事前に軽体操を行う様にしている。	水分摂取量に注意して、便秘予防になる食材を食事やおやつに使用して調理を行っている。又、身体を動かしたりする事も大切なので、歩行可能な方にはフロアと廊下を歩いたり、食事前に軽体操を行う様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに1、2日おきに入浴出来るようにしている。又ご本人の訴えがあったり、必要時には入浴して清潔にいられる様にしている。	曜日を決めずに1、2日おきに入浴出来るようにしている。又ご本人の訴えがあったり、必要時には入浴して清潔にいられる様にしている。	毎日入浴出来る準備がされている。入浴を嫌がる利用者はいないが、特定の職員でなければ入浴をしない利用者には次の日に変える等希望を受け入れて対応している。菖蒲湯、入浴剤で雰囲気を変えている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(紙ふうせん)	ユニット名(竹とんぼ)	実践状況a	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息や午睡などご本人が思うように出来る様になっている。居室内には用事がない限り立ち入らないようにして安心して自分の思うように過ごせるようにしている。	食後の休息や午睡などご本人が思うように出来る様になっている。居室内には用事がない限り立ち入らないようにして安心して自分の思うように過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時等には申し送りなどで随時職員には周知をしている。又詳しい薬に関しての情報についてはカンファレンス等で共有している。	薬が変わった時等には申し送りなどで随時職員には周知をしている。又詳しい薬に関しての情報についてはカンファレンス等で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自出来る事を役割として毎日行っている。趣味活動に関しても散歩が好きな方・将棋が得意な方等その方の好きなこと等に対応出来る様になっている。	各自出来る事を役割として毎日行っている。趣味活動に関しても散歩が好きな方・将棋が得意な方等その方の好きなこと等に対応出来る様になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればその都度職員と外に出掛けたり、週1回は、食材等の買い物に職員と一緒に出掛けるようにしている。又、家族と一緒に外食に出掛けたりする事もある。1ヶ月に1度は季節に応じた観光にも身体的負担がない場所を選んで出掛けている。	希望があればその都度職員と外に出掛けたり、週1回は、食材等の買い物に職員と一緒に出掛けるようにしている。又、家族と一緒に外食に出掛けたりする事もある。1ヶ月に1度は季節に応じた観光にも身体的負担がない場所を選んで出掛けている。	銀行等職員の外出時に利用者に声を掛けて一緒に行く時もある。利用者の希望で衣類・化粧品を買いに行ったり、月一度位隣接のデイサービスの車で、花見・菖祭り・ぶどう狩り・等に出掛けている。家族が来所して出掛ける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の規定により事業所には現金を置けない事になっている為入居者も所持金を持てる状況にない。本人から買い物希望があれば、家族に承諾を得てから事業所立替で購入している。	法人の規定により事業所には現金を置けない事になっている為入居者も所持金を持てる状況にない。本人から買い物希望があれば、家族に承諾を得てから事業所立替で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、手紙を出す事も事務所の電話から家族等に電話を掛ける事も行っている。	本人の希望があれば、手紙を出す事も事務所の電話から家族等に電話を掛ける事も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保つようにしている。目立った故障部分もなく、季節を感じられるよう工夫してちょっとした飾りを飾ったりして四季の変化を感じられるようにしている。	常に清潔を保つようにしている。目立った故障部分もなく、季節を感じられるよう工夫してちょっとした飾りを飾ったりして四季の変化を感じられるようにしている。	共用の食堂の一角に畳がありテレビ・長座布団・ぬいぐるみ人形が置かれて何時でも休める事が出来る。廊下には防災頭巾やヘルメットが吊るしてある。台所は対面で野菜を刻む音・器の音や匂いを感じる。また季節を感じる暮らしの場づくりが整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに和室があり、気軽に横になれるようになっている。横になってテレビを見たり昼寝をしたりしている。	フロアに和室があり、冬になるとコタツを置きテレビを見たり寝転んだり出来る様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使用していたものを持ち込んでいただき、出来るだけ自宅に近い居住空間を作っていたらいい。	入居時、自宅で使用していたものを持ち込んでいただき、出来るだけ自宅に近い居住空間を作っていたらいい。	居室は独自のベッドの利用者・畳で布団の利用者・ホットカーペットで自分で布団を敷いて生活している利用者等、その人らしい空間が造られている。家族の写真や仏壇・作成した塗り絵、また自分で衣類や日用品を箆籠で整理し手元に置いてある利用者など、家庭で生活している高齢者の自室を思わせる居心地のよい居室づくりがされている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(紙ふうせん)	ユニット名(竹とんぼ)	実践状況a	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は全面バリアフリーとなっている。トイレと浴室・廊下には手摺を設置し出来るだけご本人の身体機能を活かした支援が出来る様になっている。	室内は全面バリアフリーとなっている。トイレと浴室・廊下には手摺を設置し出来るだけご本人の身体機能を活かした支援が出来る様になっている。		